



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

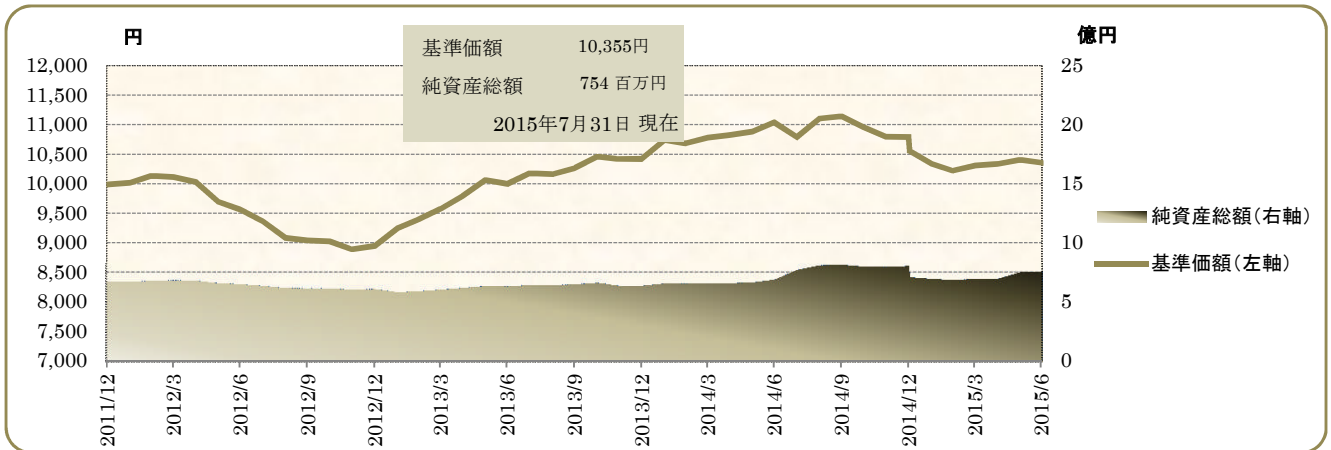
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2015年7月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

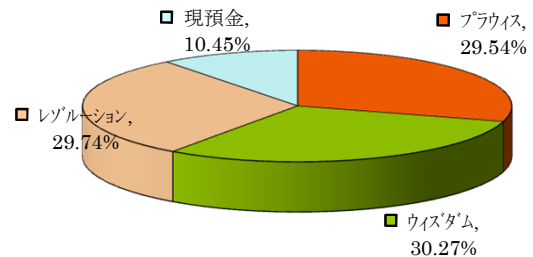
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%						-4.06%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2015年7月31日	
基準価額:	10,355円	対前月比 -52円
純資産総額:	754百万円	対前月比 +2.2百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	0.46%
基準価額騰落率	6ヶ月	-1.91%
設定来	ファンド	3.55%
基準価額騰落率	TOPIX	129.35%
	日経平均	145.01%

投資対象ファンドへの資産配分 (2015年7月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%						-0.67%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%						0.24%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%						-4.46%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

7月の株式相場は、日経平均で1.73%上昇の20,585.24円、TOPIXで1.79%上昇の1,659.52ptとなりました。ギリシャ債務問題や中国株下落を背景に一時大きく下落したものの、これらの懸念が後退するにつれて上昇しました。

上旬は、上下に激しい値動きとなりました。日銀短観が予想を上回り、景気回復への期待から上昇して始まったものの、ギリシャの国民投票で財政緊縮策が拒否されると、ギリシャ情勢の先行き不透明感からリスクオフとなり下落しました。中国株の下落が止まらなかったことも、投資家のリスク回避姿勢を強めて下落につながりました。

中旬は、中国株が中国当局の株価下支え策を好感して上昇に転じたこと、ギリシャとEUの支援策合意通しが強まったことで、急回復しました。

下旬は、もみ合いとなりました。米企業業績の鈍化や中国株が再び下落に転じたこと、原油を中心とした商品市況の悪化などで下げる局面もありましたが、好業績への期待から内需株を中心に

買いが入り、下げ幅を縮小させました。

東証一部の売買代金は、11か月連続で2兆円を上回りました。需給面では、海外投資家が2か月連続で売り越し主体となりました。一方で個人投資家と信託銀行が2か月連続で買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、空運業、電力・ガス業、食料品、陸運業、その他製品が上位となり、鉄鋼、機械、電気機器、非鉄金属、金属製品が下位となりました。内需ディフェンシブ業種のアウトパフォーマンスが目立った一方、海外情勢への懸念から外需業種がアンダーパフォーマンスしました。

ファクター面では、バリュース系の指標が不調で、モメンタムや低ベータが好調でした。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

＜ファンド運用状況＞

7月の運用成績はJPYクラスで+0.22%となりました。外部環境の不透明感から製造業を中心にPERなどのバリュースファクターが全く機能せず、機械や電機などの外需セクターではマイナスのリターンとなりました。一方で業績拡大が見込める小売株や食品株のウェイトを高めていたことから、全体ではプラスの収益を確保することが出来ました。

セクター別の損益は食品、小売、不動産、医薬セクターでプラスとなり、機械、電機、サービスセクターでマイナスとなりました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

8月の株式市場はもみ合いの相場展開を想定します。中国景気に対する懸念もあり、引き続き内需株主導の相場展開になると考えます。需給面では公的年金や日銀の買いもあることから、下値は限定的と考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

＜ファンド運用状況＞

7月の運用成績はJPY-Fクラスで+0.96%でした。先月と同様に業績モメンタムが注目される物色動向となる中、好業績株が相対的にアウトパフォーマンスした他、医薬品、サービス、ソフトウェアセクター等をオーバーウェイトにしていたことがプラス収益に寄与しました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションで九州電力(9508)、JR東日本(9020)、ショートポジションではヒロセ電機(6806)、伊藤忠(8001)がプラス収益に寄与しました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

8月の株式市場は緩やかな上昇を予想します。7月下旬から始まった国内企業の4-6月期決算は30%前後の経常増益と良好です。共済年金等の公的資金や日銀の買いが株式需給の支えとなることから底堅い相場展開を予想します。リスク要因としては、中国の景気後退リスクが考えられます。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

＜ファンド運用状況＞

7月の株式市場は、先月に続き、バリュース劣位となり、値高株や高ROE株、低信用リスク、割高株などグロースファクターが優位となりました。

ポートフォリオは、個別銘柄の判断から電機、建設、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、機械、輸送用機器などのセクターをアンダーウェイトとしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

業績回復が続くWSCOP(6619)や市場環境が良好なアウトソーシング(2427)など、個別銘柄要因によるロング銘柄がプラスに寄与しました。一方、電機など景気敏感銘柄のロングがマイナス寄与しました。

全体として、個別要因によるロングを中心に収益を積み上げたものの、割安な小型株の下落、息を吹き返した高バリュースディフェンシブ銘柄の上昇により、パフォーマンスの獲得に至りました。特に月末近くの影響が大きく残る結果となりました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

売買の対象が一部銘柄に集中している傾向や低成長高バリュース銘柄の存在などに大きな変化はありませんが、ファンダメンタルによる選別が一部見られるようになりました。

小型株については、業種内、業種間のバリュース格差が目立ちますが、多くは業績格差を反映したものとなっています。外部環境が必ずしも良好でないこともあり、第一四半期決算は企業間で大きく差が出ることも想定されます。銘柄ローテーションを意識することによるバリュース修正が期待できる局面が来ると考えます。

当面は、四半期決算の内容に注意を払い、年度業績が好調な銘柄を中心として、定性的なプレミアム付与が可能なグロース性を重視した銘柄選別を行います。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大可能な割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S.(ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**